

## 手書き文字におけるパラ言語的機能としての規範性と個性等について

## —うれしさを感じさせる要素からの検討—

都立北特別支援学校

白岩 ゆき

高崎健康福祉大学

菅野陽太郎

上越教育大学

押木 秀樹

## 1. はじめに

情報機器の普及により、手で文字を書くよりも、パソコンや携帯電話等を用いて文字情報をやりとりすることが日常的となりつつある。しかし、「手書きの方が、その人らしさが伝わるからうれしい」というような、手で書いた方が良いという意見は確かに存在する。手で書くことに何らかの価値を感じている人がいることは明らかであろう。一方、「字がへただから恥ずかしい」、「自分の字に自信がない」という書く側の意見も耳にする。

このことは、2つの課題があることを示している。一つには、その人らしさといった個性等の価値と、読みやすい字であるといった文字の伝達機能の価値との関係あるいは、バランスである。そこには、うまい・へたといった見方や、丁寧・雑といった見方も関わってくる。もう一つは、送り手（書字者）はうまい・へたを気にしているのに対し、受け手はうまい・へたよりも、その人らしさを重視しているといったように、送り手（書字者）と受け手の間に、何らかの意識の差が生じているのではないかということである。

この2点ともに、今後の手書き文字によるコミュニケーションの重要性と関わり、手で文字を書くことの教育である書写指導の目標あるいは内容と大きく関わる可能性がある。読みやすさ等と個性等との関係およびバランスはどうあるべきか、「その人らしさ」といったものを感じさせる要素とは何か、送り手（書字者）と受け手との意識の差はどうなっているか、これらの点を明らかにすることは、より豊かなコミュニケーションとそのための教育に重要であると考えられる。

本研究では、手書き文字の「パラ言語的要素」に着目し、「手で書かれた文字」を受け取った際に感じるうれしさ又は不快さなどが、どのような要素により生じるものなのかを分析することで、読みやすさと個性、その他の見方の関係およびバランスを検討する。また、手書き文字をやり取りする際の、送り手（書字者）と受け手の意識を比べ、その意識の差について検討する。具体的には、プライベートな場面における誕生日のメッセージカードを想定した筆記サンプルの収集とアンケート調査を行い、そのサンプルを対象とした他者評価・印象評価の結果を平均値・相関・因子分析等から考察する。その結果として、規範性と個性等を中心として論述する。

## 2. 書字に対する意識と教育の可能性から

## 2-1 書字に対する意識と個性の教育

平成26年度「国語に関する世論調査」<sup>1</sup>では、「文字を手書きする習慣をこれからの時代も大切にすべきであると思うか。」という問いに対し、「大切にすべきであると思う」が9割以上となることを示している。また同調査における「年賀状などにおいて、印刷されたものと手書きが加えられたものとはどちらが良いと思うか。」という問いに対しては、「手書きされたものや手書きが一言加えられたもの」が9割弱となっている。これらの結果からは、印刷による文字にない価値が手書き文字において認識され、手書き文字を加えることによる個性等のパラ言語的な機能が評価されていると予測される。

書写指導においても、手本の模倣を中心とした旧来の指導に対し、学習内容を含む教材としての手本あるいは手本に内在する価値の学習であるという見方がなされ、単なる画一的な収束の方向性のみが書写の学習ではないことが明らかにされてきた。さらに谷口<sup>3</sup>は「手書き文字の個性の教育」を検討し、「手書き文字の個性の教育」

の目指すべき姿は、自分の「個性にどのような価値があるのかを見極め、それを修正・工夫・洗練させる方向へと向けていく」とし、課題として「1. (規範性という軸で捉えれば) 規範との関係をどこまでを個性として認めるか 2. (規範性と個性の関係だけでなく) 個性の中身つまり価値をどこに認めるか」を提示している。

一方、「小・中学生～大学生の書字意識調査」<sup>4</sup>のような例からは、児童生徒・大学生が自分の字に対して自信を持っていないといった問題が見られた。(この場合の「字」とは一般の人にとって主として字形を指す表現として理解され、また本稿中ではそのような意図で用いる。以下、同じ。) さらに、文化審議会答申「改定常用漢字表」<sup>5</sup>では、「手書きでは相手(=読み手)に申し訳ないといった価値観も 同時に生じていることに目を向ける必要がある。」という手書きの価値に対する問題の指摘もなされている。

以上のようなことからすると、一般に手で書くことは大切に感じられている一方、手書きあるいは自己の書く字に対する評価が必ずしも高いとはいえないのではないかと考えられる。書写指導の立場からすれば、より効果的な学習のためにも、自分の書く字が好きで、自信を持てるようにするとともに、自己の字を固有のものとして価値を認識し、手本の字形に固執せず固有の部分を残すような学習指導が望まれているともいえるだろう。そのためには、より豊かなコミュニケーションをする上での「規範性」と「個性」の比重、つまりどこまでが個性として認められる範囲なのかといった点を検討し、手書き文字の個性の価値とそれらがどのように機能しているのかということ、明らかにすることは重要であろう。

## 2-2 先行研究と本研究の構造

文字を書くこととその教育において、どういった点を重視すべきかということについて、たとえば山田(2010)<sup>6</sup>は現在の書写教育は文字の美しさに偏重する部分が残っていることを指摘し、「よい字と美しい字とは、異なるものである」と述べている。ただし具体的な要素等については明示していない。

押木ら(2010)<sup>7</sup>・同(2013)<sup>8</sup>は、手書き文字におけるパラ言語的要素について述べているが、本研究との関わりでは、受け手にプラスの印象を与える文字の要素として整齊さが重要であるとしている。文字によるコミュニケーションにおいて、テキストの伝達機能に限らず一定の整齊さは欠くことができないことを示唆したものである。新垣・都築(2009)<sup>9</sup>は、「親しみやすい文字」「公的な場面で用いるのに適している文字」それぞれについて、影響を与える因子を明らかにしている。

本研究は、これらの成果を参照し、以下の課題を明らかにすることとした。

- ・手書きの価値の認識
- ・書き手と受け手の意識差
- ・手書きの要素としての「規範性」と「個性」との関係

具体的な構造を示したものが図1である。1次調査として、書字者に「文字に関する意識調査」をおこない、さらに指定の文言等を書いてもらって「筆記サンプル」とするとともに、そのサンプルに対して〔読みやすさ・うれしさ・自分らしさ〕等の「自己評価」を依頼した。次に、1次調査で収集した筆記サンプルに対し、2次調査を実施した。2次調査では、筆記サンプルに対し〔読みやすさ・うれしさ・その人らしさ〕等の「他者評価」と、SD法による「印象評価」を実施した。

## 3. サンプルの収集と自己評価

1次調査として、大学生・大学院生106名(18～36歳)を対象とし、「プライベートな場面で誕生日のお祝いのメッセージカード」を書く場面を想定し、筆記調査を行った。そのサンプルに対する自己評価と、自分や自分以外の人の字に対する意識調査を行った。

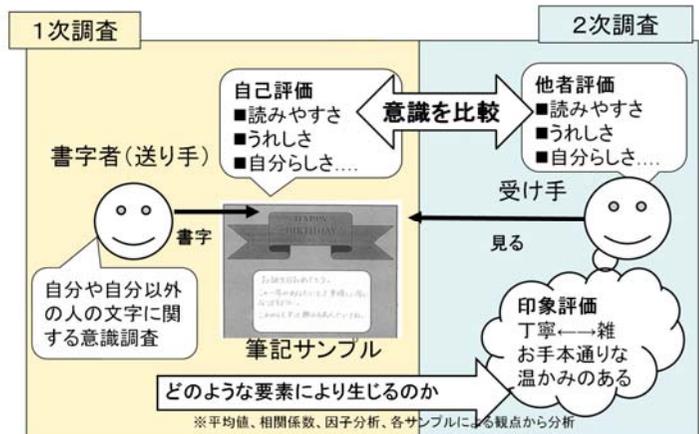


図1 本研究の全体像

### 3-1 調査の内容

調査用紙は、調査用紙1から4で構成される。調査用紙1では、筆記サンプルの収集を行った。筆記被験者に、誕生日のメッセージを書くことを想定してもらい、以下の手順で書くことを依頼した。

<被験者>

教員養成系大学の大学生・大学院生106名（18～36歳）

<指示>

「次の状況を想定して書いてください。あなたの親しい友人の誕生日に、友人数人で寄せ書きを作成する事になりました。お祝いの気持ちを込めて以下の文章を書こうと思います。」

<書き写す文章>

「お誕生日おめでとう。この一年があなたにとって、素晴らしい年になりますように。これからずっと頼れる友人でいてね。」

<レイアウト>

メッセージカードのような印刷をした紙に、筆記箇所として縦 5.5×横 9.5cm を設定した。

<注意事項について> ※筆記する前に、次の注意事項を被験者に伝えた。

- ・斜線が引かれていない、白い部分に筆記すること。
- ・横書きで書くこと。
- ・「☆」や「!」などの記号や絵を加えず、文章をそのまま書くこと。
- ・シャープペンシル又は鉛筆を使用すること。
- ・書き間違ってしまった場合は、消しゴムを使って書き直していいこと。

調査用紙2では、調査用紙1の筆記サンプルに対する自己評価を依頼した。自己評価の項目は、

- (1) 自分で書いた文字が、整っていると思いますか
- (2) 自分で書いた文字が、読みやすいと思いますか
- (3) 自分で書いた文字に、自信がありますか
- (4) 自分が書いたものを相手が受け取ったら、うれしいと思いますか
- (5) 自分で書いた文字に、自分らしさを感じますか

の5項目とし、筆記サンプルに対し5段階で回答を求めた。

調査用紙3では、場面状況下においての文字使用の好ましさ・実際の選択の調査を行った。場面については、社

会言語学において扱われる場面を参考とし、社会的ファクターと心理的ファクターを検討し、場面・年齢差・親疎等による19の場面を表1のように設定した。設問は大きく【A. 手で書くことに対する好ましさ】と【B. 実際の選択】となる。選択肢は、【A. 手で書くことに対する好ましさ】については、「手書きで」「プリントアウトしたもので」の2つを、【B. 実際の選択】に

質問数	公私	場面・状況	目的	年齢差	対する人数	社会的ファクター		相手に対してもつ心情	フォーマリティ	心理的ファクター			
						親疎	好悪			「恩恵」の捉え方	人間関係を円滑にしようとする意図		
1	私	借りたものを返す	お礼の気持ちを伝える	同年代	1	親			低	↓	○	○	
2				親									
3				疎									
4				疎									
5		バースデーカードを贈る	お祝いの気持ちを伝える	同年代	1	親							
6				親									
7				疎									
8				疎									
9		年賀状を出す	新年のあいさつをする	同年代	1	親		好感(好き)					
10				親		嫌悪感							
11				疎									
12				疎									
13		公	実習のお礼状を出す	お礼の気持ちを伝える	目上の人	1	-						好感(好き)
14					親		嫌悪感						
15	疎												
16	公	募金結果の提示物をつくる	お礼の気持ちを伝える	-	不特定多数	-		高	○	○			
17				高		○		○					
18	個人内	履歴書	採用試験のため	-	不特定多数	-		高	○				
19				高		○							

については、それらに加え、「本当はプリントアウトしたものにしたいが手書きで」「本当は手書きしたいがプリントアウトしたもので」「情報機器（eメール等）を使って伝える」の5つを設定した。

調査用紙4では、自分の字について、読みやすさや自信の有無などどのような意識を持っているか、また自分以外の人の字についてどう思っているのかを調査した。

以上により101の筆記サンプルと、それに対する「読みやすさ等の自己評価」（以下、「自己評価」と略称する）の結果、および書字行為についての意識調査の結果を得た。

### 3-2 調査の結果

調査結果として、手書きしたものとプリントアウトしたもののどちらが好ましいかの問いに対し、今回設定した「誕生日のメッセージカード」「親しい人への年賀状」「参考書を借りた際のお礼メモ」といった場面での回答を平均した結果を、表2に示す。手書きの方が好ましいと考える回答が9割を超える結果となった。しかし、実際の選択では「手書きで」を選択する人は78%で、12%の意識の差がみられた。

なお社会的な条件では、どの場合でもく親しくない目上>に対しての時が“プリントアウトしたもので”を選択している割合が高い。親しさ・年齢・フォーマリティの要因が影響している可能性がある。また、状況・場面では大きな差が見られなかったが、<募金結果の掲示物を作る>のみ“プリントアウトしたもので”を選択している割合が高い結果となった。

また平素の自分の字に対する意識についての結果を、表3に示す。全体的に整っていない、自信がない、好きではないと思っている被験者が多いという結果となった。この回答結果について、「ハイ」と「どちらかと言うとハイ」をハイグループとしたとき、<1. 読みやすいと思うか><2. 整っていると  
思うか><4. 自分の字が好きか>は、それぞれ30%から40%、そして<3. 自信があるか>は26%程度となった。自分の字に自信がある人は少ないことが分かる。ただし、<6. 手で書くことが好きか>、<7. 自分らしさがあるか>は、それぞれ約60%から70%、<8. 手で書いた方が伝わるか>は約90%となった。今回の被験者は、手で書くことが好きで、字に自分らしさがあると思っている人も多いということが分かる。

表2 文字使用の意識調査（全体の平均）

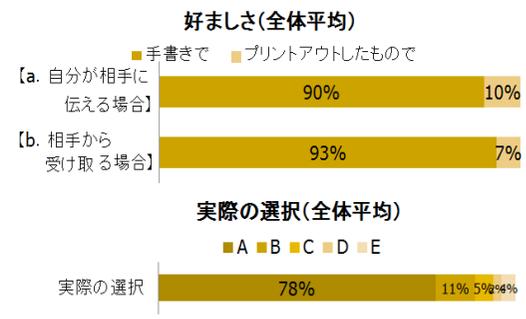
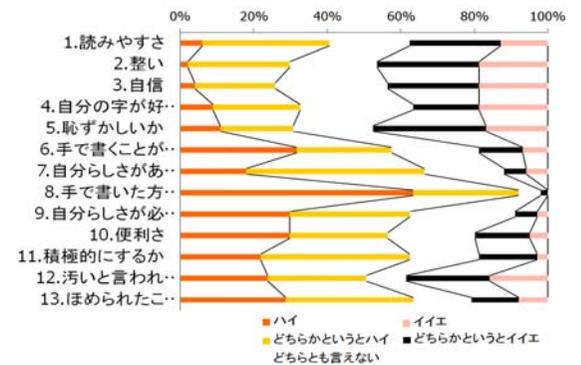


表3 自分の字に対する意識



## 4. サンプルに対する他者評価・印象評価と結果

### 4-1 評価サンプルの選定

2次調査にあたって、大学生・大学院生8名の評価により、101の筆記サンプルを30サンプルに絞り込んだ。具体的には、サンプルをプロジェクターで投影し、自分が誕生日のメッセージカードをもらう場面を想定して「受け取ったときのうれしさ」を、[ハイ]から[イエ]の5段階で評価を依頼した。その結果から、評価値に偏りがなく、30サンプルを選択した。

### 4-2 他者評価で使用する質問項目と印象評価で使用する評価項目について

2次調査として、1次調査で得た筆記サンプルに対して「読みやすさ等の他者評価」と、SD法による「丁寧←雑などの印象評価」とを、35名の評価被験者を対象に実施した。（以下、それぞれを他者評価、印象評価と略称）。他者評価の項目は、先に示した自己評価の項目と基本的に一致する次の5項目である。

(1)あなたがこのメッセージカードをもらったならうれしいと感じますか。

- (2) この人の書いた文字は整っていると思いますか。  
 (3) この人の書いた文字は読みやすいと思いますか。  
 (4) このメッセージカードを書いた人は自分の字に自信を持って良いと思いますか。  
 (5) この人の書いた文字に個性を感じますか。

これらに対し、5段階で回答を求めた。

印象評価の項目は、押木ら<sup>7,8</sup>などを参考としながら、自己評価における自由記述や関連書籍から収集し、表4に示す22項目とし、7段階の回答を求めた。

表4 印象評価の項目			
<b>&lt;整斉系&gt;</b>			
・整った-乱れた	・丁寧な-雑な	・お手本通りの-癖のある	・上手な-下手な
・洗練された-垢ぬけない	・読みやすい-読みにくい	・安定な-不安定な	
<b>&lt;雰囲気系&gt;</b>			
・あらたまった-くだけた	・真剣な-適当な	・好き-嫌い	・温かい-冷たい
・明るい-暗い	・幸せな-不幸せな	・親しみ深い-よそよそしい	・個性的-平凡
・味がある-味気ない	・素朴な-飾った	・流れるような-止まったような	・角ばった-丸みのある
<b>&lt;力量系&gt;</b>			
・大きい-小さい	・太い-細い	・濃い-薄い	

以上のように作成した評価用紙の例が、図2である。これにより以下の調査を実施した。

時期 : 2014年12月

対象者 : 大学院生・大学生 35名

内容 : 30の筆記サンプル

他者評価 (文字について5項目)

印象評価 (感性の対22項目)

#### 4-3 他者評価の平均値からの考察

表5は、自己評価と他者評価それぞれについて、ハイ・どちらかといえばハイの合計を平均したグラフである。まず、「1. 整っているか」「2. 読みやすいか」などの項目において、書字者(本人)が思うよりも、受け手(読む人)の方がわずかであるが、読みやすいと感じる傾向が見られた。同様に「3. 自信をもって良いか」と「4. もらってうれしいか」についても、受け手の評価は書いた本人の評価を大きく上回り、書字者が思っているよりも、受け手はうれしく感じ、その字に自信を持ってよいと思っているという結果となった。

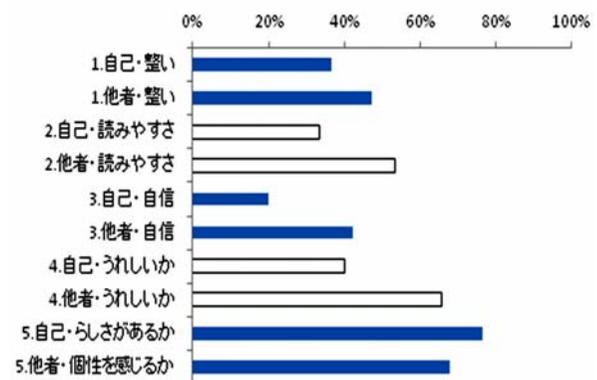
さらに、「5. 字にらしさがあると思うか」と、「5. 個性を感じるか」については、自己評価77%、他者評価68%と、それぞれが同程度に個性を感じていることが確認できた。

今回の結果からは、同じメッセージカードに対し、送り手が思っているよりも、受け手はうれしく感じ、その字に自信を持ってよいと思っていると考えて良いだろう。



図2 評価用紙の例

表5 自己評価・他者評価の比較(「ハイ」系平均)





の2つの手法を試みた。

直交回転による結果を、表8に示す。今回のメッセージカード、すなわちプライベートなお祝いのやり取りで文字を見る際の因子として、3つの因子が得られた。先行研究と同様、第1因子は「整齊さの因子」、第2因子は「親しみ、温かさ等の因子」、第3因子は「力量の因子」と考えられる。また今回の調査では、独立して第4の因子が認められ、その内容から(1~3に含まれない特徴的な)「個性の因子」と考えられる。

斜交回転による結果からは、同程度の「読みやすい-読みにくい」の因子負荷量を有している2つの因子が得られたことに着目したい。それぞれ負荷量の高い形容詞対から因子1を「フォーマリティの因子」、因子2を「フレンドリーの因子」と考えたい。「フォーマリティの因子」で負荷量が高いのは「あらたまった-」「丁寧な-」「手本通りの-」などであり、「フレンドリーの因子」で負荷量が高いのは、「明るい-」「幸せな-」などである。「フレンドリーの因子」は、読みやすさは求められるが、必ずしも「手本通り」であることが求められてはいないと考察され、今までの先行研究において、整齊系としてひとくくりに扱っていた「読みやすい-読みにくい」などの項目を、分けて考えるべき場合があることが明らかになった。図3は、その概念図である。

因子1と因子2とを散布図にしたものが、図4である。因子1の軸方向に「あらたまった-」「お手本通りの-」などが、因子2の軸方向に「明るい-」「親しみ-」などが位置することがわかる。

表8 直交回転(バリマックス回転)で得られた因子

変数		因子1	因子2	因子3	因子4
整齊系	整った-乱れた	0.85	0.25	0.00	-0.04
	丁寧な-雑な	0.85	0.29	0.02	0.07
	手本通りの-癖のある	0.81	0.07	0.13	-0.19
	上手な-下手な	0.80	0.28	0.08	-0.01
	洗練された-垢ぬけない	0.73	0.08	0.06	0.05
	読みやすい-読みにくい	0.69	0.48	0.03	-0.14
	安定な-不安定な	0.70	0.36	0.07	-0.14
雰囲気系	真剣な-適当な	0.79	0.25	0.05	0.22
	あらたまった-くだけた	0.81	-0.09	0.06	0.03
	好き-嫌い	0.58	0.54	0.03	0.12
	親しみ深い-よそよそしい	0.07	0.71	0.14	0.27
	幸せな-不幸せな	0.39	0.70	0.06	0.06
	明るい-暗い	0.21	0.69	0.25	0.06
	温かい-冷たい	0.25	0.73	0.09	0.23
	素朴な-飾った	-0.05	0.05	0.02	-0.04
	個性的-平凡	-0.19	0.13	0.11	0.64
	味がある-味気ない	0.10	0.34	0.15	0.62
	角ばった-丸みのある	0.27	-0.18	0.23	0.15
力量系	流れるような-止まったような	0.13	0.08	0.08	0.09
	大きい-小さい	0.16	0.34	0.45	0.05
	太い-細い	0.03	0.16	0.84	0.03
	濃い-薄い	0.06	0.10	0.77	0.16

表9 斜交回転(コバリミン回転)で得られた因子

変数		因子1	因子2	因子3	因子4
整齊系	整った-乱れた	0.76	0.22	-0.02	-0.07
	丁寧な-雑な	0.86	0.15	0.00	0.13
	手本通りの-癖のある	0.74	0.04	0.15	-0.22
	上手な-下手な	0.66	0.28	0.04	-0.08
	洗練された-垢ぬけない	0.66	0.05	0.02	0.03
	読みやすい-読みにくい	0.47	0.55	0.01	-0.26
	安定な-不安定な	0.51	0.41	0.06	-0.24
雰囲気系	真剣な-適当な	0.88	0.04	0.01	0.33
	あらたまった-くだけた	0.93	-0.27	0.07	0.14
	好き-嫌い	0.39	0.56	-0.04	0.02
	親しみ深い-よそよそしい	-0.05	0.68	0.06	0.20
	幸せな-不幸せな	0.10	0.80	-0.01	-0.11
	明るい-暗い	-0.11	0.83	0.17	-0.17
	温かい-冷たい	0.14	0.69	0.02	0.17
	素朴な-飾った	0.06	-0.05	0.07	0.04
	個性的-平凡	-0.09	-0.02	-0.02	0.69
	味がある-味気ない	0.19	0.15	0.02	0.69
	角ばった-丸みのある	0.33	-0.27	0.20	0.18
力量系	流れるような-止まったような	-0.02	0.16	0.02	-0.02
	大きい-小さい	-0.08	0.44	0.39	-0.14
	太い-細い	-0.01	0.09	0.85	-0.05
	濃い-薄い	0.12	-0.05	0.77	0.15

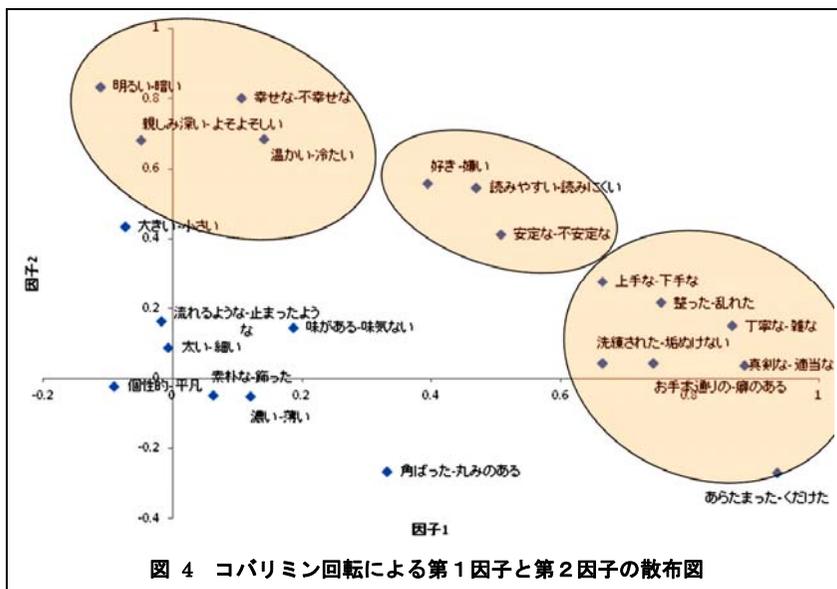
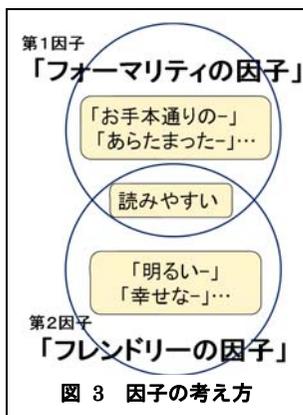


図4 コバリミン回転による第1因子と第2因子の散布図

4-6 各サンプルによる考察

これまでの結果から、プライベートなお祝いのメッセージカードでは、フレンドリーであったり、フォーマルな印象を持ったりすることで、そのバランスが多少違って、うれしいと評価されるサンプルがあり、うれしさにつながる文字の印象に多様性や幅があることが示唆された。まずこの幅を中心に、具体的なサンプルから確認していきたい。

図5に示す4つのサンプルは、他者評価で「もらってうれしいか」が4.4以上と高く、うれしいと評価されたサンプルである。しかし、うれしさに影響する要素は様ではなく、「フォーマリティの因子」と「フレンドリーの因子」について、左から順に、

- 双方が高い例 (手本通りの : 6.3 温かい : 5.3)
- 「フレンドリーの因子」が高い例 (手本通りの : 5.1 温かい : 5.5)
- 「フォーマリティの因子」が高い例 (手本通りの : 5.6 温かい : 4.7)

sample11

お誕生日おめでとう。  
この一年があなにとって素晴らしい年になりそうです。  
これからもずっと頼れる友人でいてね。

sample29

お誕生日おめでとう。  
この一年があなにとって素晴らしい年になりました。  
これからもずっと頼れる友人でいてね。

sample18

お誕生日おめでとう。  
この一年があなにとって、素晴らしい年になりました。  
これからもずっと頼れる友人でいてね。

sample1

お誕生日おめでとう。  
この一年があなにとって、素晴らしい年になりました。  
これからもずっと頼れる友人でいてね。

「フォーマリティの因子」と「フレンドリーの因子」双方が高い。

「フレンドリーの因子」が高い。

「フォーマリティの因子」が高い。

お手本通りでなくとも整齊であり、読みやすいという印象を評価。

ノサンプル名	整った-乱れた	丁寧な-雑な	上手な-下手な	お手本通りの-癖のある	洗練された-垢ぬけない	読みやすい-読みにくい	安定な-不安定な	真剣な-適当な	あらたまった-くだけた	好き-嫌い	親しみ深い-よそよそしい	幸せな-不幸せな	明るい-暗い	温かい-冷たい	素朴な-飾った	個性的-平凡	味がある-味気ない	太い-細い	大きい-小さい	濃い-薄い	角ばった-丸みのある	流れるような-止まったような
samp11	6.4	6.5	6.3	6.3	5.8	6.5	6.5	6.0	5.8	5.9	4.7	5.4	5.5	5.3	4.2	4.1	4.4	3.8	5.2	4.3	4.5	3.9
samp29	5.7	5.8	5.9	5.1	5.2	5.9	5.5	5.4	4.8	5.8	5.5	5.5	5.7	5.5	4.0	4.6	5.0	5.3	5.3	5.4	3.9	5.1
samp18	6.4	6.2	6.5	5.6	6.4	5.5	6.2	6.1	6.4	5.6	3.5	4.9	4.6	4.4	3.2	5.1	5.2	4.1	5.2	4.4	4.6	6.4
samp1	5.3	5.6	5.2	3.9	4.2	6.1	5.8	4.8	3.6	5.4	5.3	5.4	5.1	5.5	4.6	4.1	4.2	3.9	4.5	3.5	2.5	4.3
全体平均値	4.3	4.4	4.3	3.6	4.0	4.5	4.4	4.3	3.9	4.3	4.6	4.5	4.7	4.7	4.4	4.8	4.5	4.3	4.5	4.4	3.8	4.2

図5 うれしい評価が高いサンプルと要因

と考えられる。

特に一番右の例は、「フレンドリーの因子」が高いものの、「手本通りの-」の値が3.9と平均的な数値となっている。このように、いわゆる手本のような字形であることだけが、手書き文字の価値として重要なわけではないことが、視覚的にも確認できよう。

また図6は、他者評価における「うれしさ」の値が2.2~3.5と低かった例である。いずれも、読みにくいという印象(2.0~3.4)が、

「うれしさ」の低い理由となっていると推定される。さらに書き手が思っているよりも読み手のうれしさがマイナスとなっている。左のSample24の場合、うれしいかは、自己評価4に対し、他者評価2.2である。

整齊さは、3.7~4.7と必ずしも低いわけではないが、読みにくい理由としては、文字の大きさが極端に小さいこと、配置や字間が詰まっていること、また筆脈の連続などが確認できる。これらの例からは、本研究において整齊系とした各項目と読みやすいこととは、非常に近い概念であるが、うれしいかどうかには読みやすさの印象がより強く影響しているという可能性が示唆された。

さらに読みやすさや、フレンドリーな印象があっても、極端にフォーマリティが低いと、うれしさの評価に影響が及ぶ例として、図7があげられる。この例では、「4. うれしいか」が3.4と低い値となっている。「読みやすい-読みにくい」は4.0と低いわけではなく、「親しみ深い-よそよそしい」5.1、「明るい-暗い」5.0など「フレンドリーの因子」の値が高い。ただし、「整った-乱れた」で3.3、「お手本通りの-癖のある」2.8と、「フォーマリティの因子」が低く、あらたまっていることあるいは手本(=文字の規範性)から遠ざかっていると、うれしさの評価に影響を及ぼす例として考えられる。

## 5. 研究の成果と課題

1次調査から、本研究における基礎的なデータを得た。「手書き」「プリントアウトしたもの」の望ましきについては、今回提示した場面であるお礼のメモ、誕生日のメッセージカード、礼状などにおいて、プリントより「手書き」が望ましいとする回答が平均で90%程度となった。ただし、どちらが望ましいかと異なり、実際の選択は78%と、12%の差が見られた。また場面に関しては、掲示物に手書きが望ましいとする回答が46%と低かった。さらに、親しくない目上の人には、プリントを選ぶ傾向も見られた。

次に、本研究における主たる課題の一つである書き手と受け取る側の意識差は、次のようにまとめられる。「プライベートなお祝いのメッセージカード」という状況において、送り手(書く側・書字者)と受け手(受け取る側・読む側)の意識には差が生じている結果となった。

- ・書く側より受け取る側の方が、良い評価をしている傾向がみられる。
- ・書く側は、美しい、整った字、規範的(お手本的な)な字を書きたいと思う傾向が強めである。
- ・受け取る側は、読みやすければ親しみや明るさを感じる字をうれしいと思っている。

このことから、自分の字に対する他者の評価を知ることも重要であり、学習活動における相互評価の工夫もありう



図6 うれしい評価が低いサンプルと要因

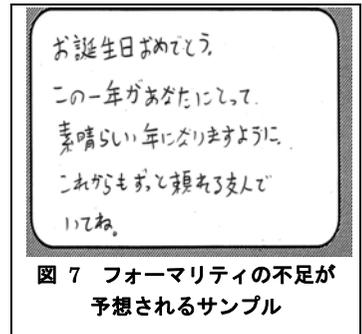


図7 フォーマリティの不足が予想されるサンプル

ると考えられる。それにより、自分の字に自信を持って書くことにつながられるのではないかと考える。

さらに本研究において中心となる課題である、読みやすさ等と個性等との関係およびバランスについては、次のようにまとめられる。従来の捉え方は、本研究における直交回転による因子分析の結果と同様に、整齊さに関わる因子が重要であり、雰囲気系の因子（丸角）などが個性として機能するというものであった。その場合、手本のような規範性も文字の読みやすさとともに、整齊さの因子として考えられていた。一方、本研究は誕生日のメッセージカードの「うれしさ」を中心とした考察ではあるが、斜交回転の因子分析によりそれとは異なる結果が得られた。すなわち、ある程度の「読みやすさ」という要素が共通して必要である一方、「フォーマリティの因子」、「フレンドリーの因子」が認められ、そのバランスが多少違っていても、どちらの方向性もうれしいと評価されることである。「手本のような規範性」はフォーマリティの要素となり、「読みやすさ」のような必須の要素とはいえない可能性がある。

メッセージカードをもらってうれしいかどうか基本として求められる要因は、「読みやすさ」である可能性が考えられ、この「読みやすさ」を構成するものとして整齊さ等の要素があるという捉え方もできるだろう。さらに、「読みやすさ」という識別性がある程度確保されていれば、その他のフォーマルさや、フレンドリーさのような要素は、個性として受け止められている可能性も考えられる。

また、文字の大きさや配列等による読みにくさは、書き手が思っているよりも、読み手のうれしさに影響を及ぼすことが明らかになった。整齊さに劣ることだけが、読みやすさを阻害する原因ではないという結果からは、字が苦手な人も文字の大きさや配置を工夫することで、印象をある程度良くすることができる可能性を示しているとも考えられる。

本研究における課題は次のように考えられる。今回の調査は、被験者として教員養成系の大学生・大学院生を対象としている。被験者の属する年齢層や属性を広げ、さらに被験者を増やして信頼性を高めることが必要であろう。また、メッセージカード以外の場面として、たとえば比較的公的な場面での手書きについての調査等を積み重ねていくことで、手書きの持つ価値がさらに明らかになっていくものと考えられる。

次に、例えば「フレンドリーの因子」について、どのような文字の特徴がフレンドリーな印象を与えるのかというところまで、今回の調査では到っていない。個性を感じるといった場合、それを感じさせる具体的な特徴についても同様である。関係している具体的な字形の特徴を明らかにすることにより、教育の場面での配慮の可能性が見えてくるものと思われる。さらに、「読みやすさ」が重要であることは、先行研究からも明らかであるが、一定の基準があるかどうかといった検討も重要だと考えられる。

それらの課題を明らかにし、あるいはそれと平行して、書写教育の目標論あるいはその実践において、読みやすさと、規範性・個性との関係を扱っていくことが、今後ますます重要になると考えている。

<sup>1</sup> 文化庁（2015）、平成26年度「国語に関する世論調査」、文化庁文化庁国語課

<sup>2</sup> 全国大学書写書道教育学会編（2009）、明解書写教育、萱原書房（「手書きすることの意義とその教育」「書写の学習指導の考え方」）

<sup>3</sup> 谷口・松本（2000）、手書き文字の個性の教育に関する研究方向性、学校教育実践学研究 6, pp. 27-37

<sup>4</sup> 全国大学書写書道教育学会（2005）、20周年アンケート：小・中学生～大学生の書字意識調査、書写書道教育研究 20号（別冊）、pp. 38-56

<sup>5</sup> 文化庁（2010）、文化審議会答申 改定常用漢字表「I 基本的な考え方」p. 6

<sup>6</sup> 山田敏弘（2010）、現代型書写教育について、岐阜大学国語国文学 36, pp. 4-6

<sup>7</sup> 押木・寺島・小池（2010）、手書き文書におけるパラランゲージの要素による伝達に関する基礎的研究、書写書道教育研究 24号, pp. 21-32

<sup>8</sup> 押木・渡邊・高田・伊藤（2013）、手書き文書におけるパラ言語的機能としての相手への感情の伝達と要素—好意の有無・相手の性別および字形・配列の効果—、書写書道教育研究 第27号, pp. 40-49

<sup>9</sup> 新垣・都築（2009）、人は手書き文字をどのような次元で認知しているのか？、社会イノベーション研究 第4巻 第2号, pp. 27-44